

元気からだ! Q&A

大人もかかるリンゴ病

千葉県皮膚科医学会

吉澤 奈穂 医師

Q リンゴ病は大人もかかると聞きましたか、本当ですか？

A 俗にリンゴ病と言われる「伝染性紅斑」は、HPV B19（ヒトパルボウイルス）の感染症です。

感染1週間ぐらいで発熱や全身倦怠感、頭痛や関節痛などがあり、感染約2週間（4〜20日）で発疹が出現します。発疹は顔面の平手打ち様紅斑、四肢や体幹の網目状紅斑が特徴です。

5〜9歳が感染のピークで、次いで0〜4歳が多いですが、成人の発症もまれではありません。ただ、成人では両頬の紅斑が出ることはまれで、皮疹が非典型的なことが多いため、リン

ゴ病と診断されていなかったり、風疹などと誤診されたりしている場合も多くありそうです。

Q 子どもの頃に、リンゴ病にかかったことがある場合は、かかりませんか？

A 一度かかった場合は終生免疫ができるため、基本的には二度かかることはないと言われております。大人になると約半数以上の人が、HPV B19に対する免疫があるとされています。

Q インフルエンザのように、「外出禁止」等、感染防止についての決まりはありますか？

A 発疹が出現した時には、もうウイルスは排出されず感染性はほとんどないと考えられるので、出席停止などの扱いにはなりません。また、有効な治療薬はなく対症療法となりますが、小児は基本的には無治療でよいとされています。

Q 妊婦さんがかかると、どうなりますか？

A お腹の中の子どもにも感染して胎児水腫となる可能性があります。お産や死産の危険がありうるので注意が必要です。特に妊娠20週までの母体感染が胎児にとって危険で、流産率が増加します。

Q どのような予防方法がありますか？

A HPV B19のワクチンはありません。

ウイルスに感染するリスクを下げる方法としては手洗いを普段から徹底することが有効かもしれません。リンゴ病は感冒症状の時期に感染力が強いので、妊婦さんなどは、特に流行時には感冒症状のある人に近づくことを避けたい方が良いでしょう。



☒ 病気や医療に関する質問を付けております。

千葉県医師会広報係まで 〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-1

※個別の病気につきましてのご質問には応じかねますので、ご了承ください。

